

集義の星

しゅうぎのほし

~LOVE & JUSTICE~

本渡北小学校
学校通信
令和8年3月9日
文責・木村純一

19

本渡北小HPは
↓コチラ



縦割り班全校遊び@送別遠足

3月6日金曜日早朝、正門前を通る子たちがにこやかにあいさつをして通っていきます。青空のもと、このあと雨が降るため、遠足の実施が難しいとはだれも思っていないかのような足取りです。しかし天気予報は、9時過ぎから14時まで、ちょうど遠足で西の久保公園にいる時間と重なります。

雨天時の計画は、1校時の縦割り班全校遊びのみの実施で、その後は通常授業でした。しかし、先生たちは、なんとか遠足の思い出を作らせたいと、一生懸命考えました。それは、遠足の代わりに、学級学年遊びの時間を設定するというものです。校舎内で実施する縦割り班全校遊びを11時からに変更し、それまでの120分間を、低中高学年で40分ずつ、体育館または運動場で、学級学年遊びを実施するというものでした。

子どもたちのために何かできることを探ろうとする先生たちの思いが伝わりました。ということで、子どもたちは歓声を上げながら、陣取りやドッジボールを、十分楽しみました。

10:50、放送が入ります。縦割り班全校遊びの移動開始です。この縦割り班全校遊びは昨年度企画され、大好評につき、令和7年度も実施するものです。1~6年生、全学年が所属する縦割り班を26班のうち、13班までは各教室を使ったスタンプラリーを実施し、残りの26班までは体育館でのOXクイズ等にチャレンジします。もちろん企画は計画委員会を初めとする高学年の子どもたちです。縦割り班を離れて各教室でクイズを出す係、また体育館でOXクイズを進行する係、縦割り班を安全に移動させる係、また進行状況を見て放送で案内を入れる係等、それぞれの係をしっかりとがんばりました。とかく子どもたちのスタンプラリーは先を急いで班がバラになることがあるのですが、そのような光景がどこにもありませんでした。子どもたちは整然と移動し、次々とアトラクションを楽しんでいました。昨年度はチャットを使い情報交換をしていた子どもたちでしたが、今年度はスプレッドシートに空き教室の状況をクイズ係が書き込む形で情報を有効活用しました。またクイズの出題はプレゼンソフトによるものでした。子どもたちがICTを有効活用している光景がとてもいいなと思っていました。



ICT活用、リーディングDX、それは機器の活用スキルにとどまらず、人前で話す、縦割り班をリードする、プレゼンでわかりやすく説明する等の実体験を伴うスキルとリンクしたときより高い効果を発揮すると思います。私は現在4年理科の授業に少しだけ入っていますが、デジタルスタンプをゲットしたいという意欲が、まとめを書き込む速度と文字量を格段に引き上げています。承認欲求や成功体験、そんなことが子どものスキルをより高めると思います。

子どもたちが今日、ICTを活用し、縦割り班全校遊びを通して得たものは、縦割り班の絆と、高学年の行事遂行力とリーダーシップ等々、もはやICTスキルにとどまらないことは明白です。ICTスキルは、表現力等、成長に必要なスキルとリンクしたとき、より力を発揮すると思います。

さまざまな経験を重ねて成長している、本渡北小の子どもたちです。低学年の子どもたちも数年後は、縦割り班をリードしたり、クイズを出題したり、体育館でのOXゲーム大会を進行したりと、成長していくのだと思います。縦割り班活動は子どもたちに大未来予想図です。

